

## 地元から反戦を訴えましょう

### 機能強化される小牧基地

山本みはぎ

私たち、不戦ネットは、「地域でできる戦争非協力」を一つのスローガンに、小牧基地の問題を取り組んできました。

安保関連法(戦争法)が施行され、自衛隊が海外でいつでも戦争ができる状況になり、小牧基地の役割もますます重要になってくると思われまます。また、武器輸出解禁で小牧基地と隣接する国内最大の軍需産業である三菱重工との関係もより密接なものになってきます。

2008年の空中給油機導入以降、手薄になっていた小牧基地への取り組みをもう一度組み直そうと思っています。小牧基地の問題点をまとめます。

#### 空の派兵拠点としての小牧基地

航空自衛隊小牧基地は、92年のカンボジア PKO 派遣から、空の派兵拠点として輸送任務を行っています。とりわけ、2004年のイラク戦争の際には、イラク特措法によりクウェートを拠点にイラクの首都バグダッドなどに国連や多国籍軍の人員・物資を輸送する活動を行い、憲法違反の任務に従事しました。昨年は、南スーダンにも派遣され「邦人救出」の任務を担っています。

2008年からは、戦闘機の能力を飛躍的に向上させる KC767 空中給油機 4機が随時導入され、C130 輸送機 2機も空中給油機能を持つようになりました。KC767 空中給油機は、F35 ステルス戦闘機など米空軍の戦闘機にも給油ができ、C130 も米海軍や海兵隊の戦闘機に空中給油ができます。すでに 2015 年にアラスカで行われた、日米共同訓練「レッド・フラッグ・アラスカ」に参加し、空中給油訓練を行っています。



KC767 空中給油機

安保関連法(戦争法)の施行後、「駆けつけ警護」や「宿营地防衛」という新任務を付与され、南スーダン PKO で陸上自衛隊が派遣されていますが、南スーダンの状況は PKO5 原則にも違反し、国連も「大規模な残虐行為が発生する非常に現実的な危険」があると指摘するような状況にあります。南スーダンの混乱が深まれば、すでに邦人輸送の実績がある中で、C130 輸送機がさらに活用される事態もおこり得ます。また、アメリカのトランプ大統領は、ISの掃討を優先課題に挙げています。アメリカが本格的に動けば、安保関連法の「国際平和支援法」で国際社会の一員として小牧基地からも「参戦」することになりかねません。

今年導入される、新空中給油機 KC-46A は鳥取県の美保基地(防衛省が管理し、愛称を鬼太郎空港という米子空港と滑走路を共有)に 3機配備します。KC-46A は、航空自衛隊が導入するオスプレイにも給油機能を備えています。小牧基地の KC767 空中給油機と合わせて7機体制で運用し、戦闘機への給油能力は一段と高まります。

#### 武器輸出、軍需産業との一体化

最新鋭ステルス戦闘機F35は、アメリカの軍需企業ロッキード・マーチンが開発し、イギリス空・海軍、オーストラリア、イスラエル、トルコなど世界中に展開される予定になっています。日本の自衛隊も老朽化が進むF4戦闘機の後継として、42機導入する予定で、うち4機は米国で組み立てられますが、残り38機は三菱重工小牧南工場で組み立てられ、三沢基地(青森県)に配備されます。

今号の田村さんの報告にあるように、1月20日、海外で初めて米軍岩国基地に配備されました。F35は敵のレーダーに捕捉されにくい優れたステルス性を持ち、核弾頭の搭載も可能と言われています。

IHI(旧石川島播磨重工)瑞穂工場(東京都)でエンジンの最終組み立てを行い、三菱重工小牧南工場にある、米国防総省が認定する「FACO」(FACO=Final Assembly and Checkout Line)と名付けた設備で、2015年12月から最終組立を開始しています。

日本での部品の製造が容認された当時、紛争当事国に武器輸出を禁じた「武器輸出三原則」が生きていましたが、政府は「わが国の防衛生産および技術基盤の維持・育成・高度化に資する」として、例外扱いとして容認したという経緯があります。前述した

ように、F35は世界各国に配備され、イスラエルなどの紛争当事国に日本の企業で生産された部品が使われたF35が、イスラエルなどに間接的に輸出されるということになります。

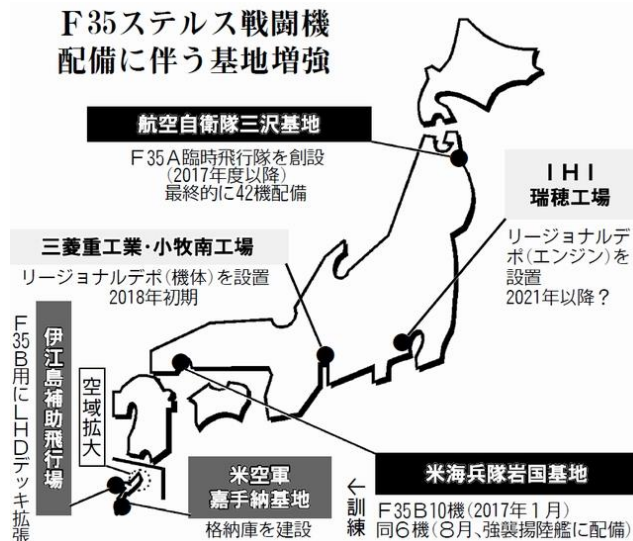
2015年、日本経団連は「防衛産業政策の実行に向けた提言」の中で、「国内防衛各社が航空自衛隊の次期主力戦闘機F35を国内生産するのに合わせ、海外向けにもF35関連のコンポーネントを輸出できる体制を構築すべき」として、主に米国向けなどにコンポーネントを輸出し、完成したF35を第三国に供与する仕組みを想定して政府に支援を求める提言を出しています。武器輸出三原則に代わり「防衛装備移転三原則」で、実質的に武器輸出が解禁された状況を見越し、財界が積極的に武器輸出を推進していくという構造がわかります。そして、その中心に小牧基地と三菱重工が位置付けられるということです。

### F35の整備拠点

2014年12月、アメリカは、アジア太平洋地域における整備拠点として、日本とオーストラリアを選定したと発表しました。機体の整備拠点は三菱重工小牧南工場を、エンジンの整備拠点は、IHI瑞穂工場としています。

三菱重工小牧南工場が整備拠点になれば、米軍以外にも、韓国軍や台湾軍などアジア地域から小牧にF35が飛来することになります。そして、日本やオーストラリアに整備拠点ができれば、アメリカ本土に帰ることなく、軍事作戦を迅速に遂行することができますようになります。小牧基地や三菱重工が、アメリカの軍事戦略に一層組み込まれるばかりか、軍需産業のさらなる拡大につながります。

(資料 新聞赤旗より)



### 戦後初の純国産戦闘機 次世代実証機X2

防衛省が、三菱重工などに発注した次世代実証機X2の試験飛行が、昨年4月小牧基地で行われました。次世代実証機X2は、2030年頃に退役するF2戦闘機の後継機として開発研究されているもので、レーダーに感知されにくいステルス性能や高い旋回能力を持つと言われています。ステルス性能を持つ戦闘機の開発は、米国、ロシア、中国に続くものです。X2は、95%が国内部品で製造され、関連企業は1000社以上になるとされており、軍需産業の拡大にもつながります。そして、何より高いステルス性能を持つことで、攻撃能力が高まります。

おわりに

安倍政権の下で、安保関連法(戦争法)の成立や、武器輸出の解禁など憲法前文と9条を否定する法整備や政策が次々と進み、一方では法改正を先取りしたような攻撃的な装備(兵器)の開発が進んでいる実態が、この愛知の地で進んでいます。愛知で進んでいることが沖縄をはじめ日本全国の基地、軍需産業とつながっています。

忘れてはならないのは、小牧基地の滑走路は愛知県が設置・管理する県営名古屋空港の滑走路です。愛知県は、自動車産業に代わる産業として、『研究開発から設計・開発、製造・販売、保守管理までの一貫体制を構築し、アジア等新興国の追従を許さない、欧米先進地域と肩を並べる日本で唯一の集積地「アジア No.1 クラスタ」を形成する。』ということを目指し、三菱重工などと密接な関係を築いています。

足元から、戦争につながることを拒否する運動を、改めて進める必要を強く思います。

### 今年も小牧基地のオープンベースでブルーインパルス展示飛行！？

一昨年から、行われている小牧基地でのブルーインパルスが、3月5日の小牧基地オープンベースで行われようとしています。市街地上空での危険な曲芸飛行に対し、周辺自治体も反対をしています。また、自衛隊の存在を誇示するイベントです。不戦ネットでは、小牧基地や愛知県に対し、申し入れと、3月5日当日の抗議行動を予定しています。反対の声を上げていきましょう。